



2020. 11. 16 ひなご幼稚園園長 神戸洋美

働き方の変化

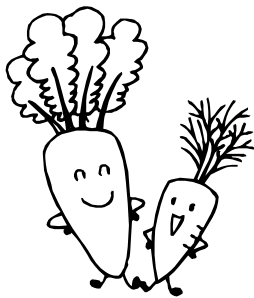
昨年と比較すると働き方がすっかり変わりました。ここ最近では新型コロナウイルス流行により、市主催の行事はほとんど中止となり、今まで土・日曜日に公職者として出席していたものがなくなりました。夕方5時以降の団体との総会や懇談会もなくなり、6時以降は家に帰り主婦業に専念している毎日です。また幼稚園での仕事時間は、4月から10月までの半年間を振り返ると、昨年とほとんど変わりません。特に今年はコロナの影響で何度も手紙やメールを発信したり、職員会議で行事の内容を検討したりと充実しており、地に足をつけて取り組んでいるという実感があります。



これまでの働き方を振り返ると、我が子が小さい頃は、幼稚園の仕事と子育ての両立で、家の中は見えるところしか片付けなかったし、途中から公職者の仕事に加わってからは、全く手つかずの状態です。ところがコロナによって土日に時間ができ、仕事も家事も余裕を持って出来るようになったのです。その時間を利用して、これまでほったらかしだった台所の掃除に取り掛かりました。

まず棚の整理整頓。もう何十年も使わなかったものは全部片付けました。次に鍋磨き。油でコテコテに固まったなべ底（外側）や取っ手の部分をひたすら目打ちでガリガリ削ってピカピカにしました。まるで新品のようになり、夫から「鍋磨きに転職したら」と言われたほどです。調味料が並んでいた棚や容器は、新しい物を100円均一で購入し全て取り替えました。どんどん変化していく家の中を見ながら、「私は家事をさぼってたんじゃない。時間がなかったからできなかったんだ。」と自分に言い訳しています。

もちろん早く以前の生活を取り戻したい、と思いますが、自粛生活の中でちょっぴり余裕の時間が与えられ、何十年もおろそかにしてきた家事が一気に片付けました。出席行事が軒並みなくなった寂しさと、そこそこ家事もしながら仕事出来る「働き方の変化」に私の心境は複雑です。



どうやって声をかけるか

先ほど100円均一で買い物した、と書きましたが、その時にこんなことがありました。品物をかごに入れてレジの方向へ進んでいった時、ガシャガシャと何か崩れる音がしたのです。見ると小学4年生？位の男の子が、かけて合った商品をひっかけたらしく、床に散乱してしまいました。かなりの数で10個以上はあったと思います。当然、拾って元の場所に戻すだろうと見ていると、なんとその子は捨てるどころか足で蹴って棚の下に隠そうとしているのです。

私はすぐに近くに行き、商品を拾ってかけ始めました。驚いた様子で私を見ている小学生に向かって、こう言いました。「大事な商品だよ。足で蹴ったら汚れちゃうでしょ。元にもどそうね。」すると小学生も一緒に拾い始めました。全部拾って元の場所にかけて、小学生は黙ってその場から立ち去りました。

私が声をかけたことできっとその男の子も「あっ！」と気がついて反省したのだと思います。だって、ちゃんと一緒に拾ってくれましたから。注意の仕方は難しいと思いますが、どのように声をかけたらいいのか、自分自身にとっても勉強になりました。

希望を持ち続けて

先週あたりから第3波が押し寄せ、まだ「コロナ」という暗いトンネルを抜けることが出来ません。が、先日行われた体操の大会で、内村選手がこう言いました。『残念なのは日本の国民の皆さんで「五輪はできない」と考えている人が80%以上いること。「できない」じゃなく、「どうやったらできるか」を考えて、どうにかできるように考えを変えて欲しい』心に残った言葉です。今後の状況はわかりませんが、園としても「どうやったらできるか」を様々な方向から考えて、行事開催に前向きに取り組んでいきたいと思っています。ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

